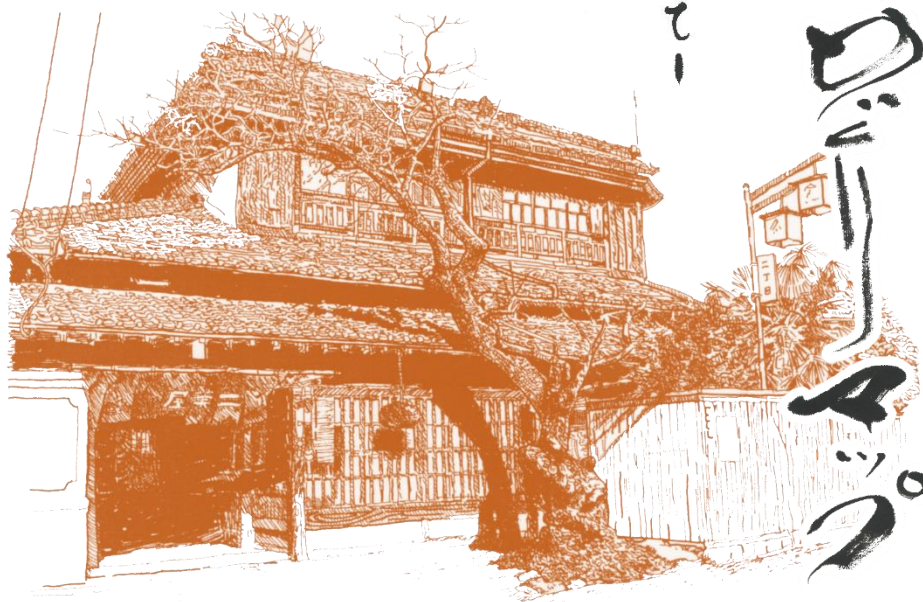


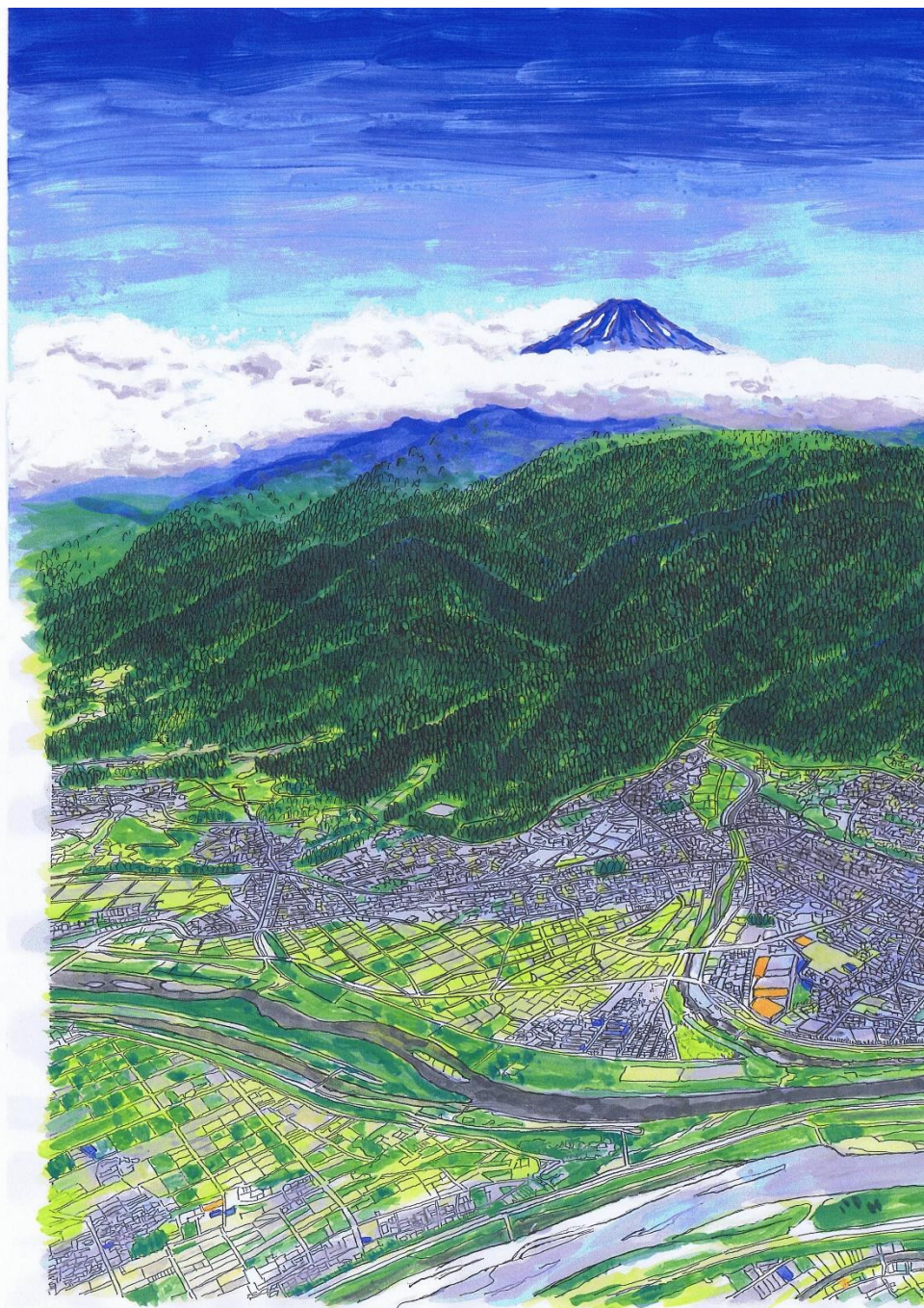
市川三郷まちめぐりマップ
歴史・文化の力を信じて



市川三郷まちめぐりマップ

市川三郷町全景





目次

まえがき	1	八幡神社	27
市川三郷町地区割図	2	八處女神明宮	27
大塚地区の地図	4	御陣屋	28
下九一色地区の地図	5	市川代官所	28
上野地区の地図	6	押切刑場跡	29
大塚古墳	7	青洲文庫跡地	30
熊野神社	8	市川教会	31
南村の宝篋印塔	9	丹頂堂	31
芦川第一発電所	10	福寿院	32
千波ノ滝	10	円立寺	32
光勝寺	11	弓削神社	33
表門神社	12	一宮浅間神社	33
薬王寺	13	四尾連湖	34
歌舞伎文化公園	14	市川地区の石仏・道祖神	35
市川團十郎	15	岩間・楠甫・宮原・葛籠沢・	
山の先生 丹沢正作	16	鴨狩津向地区の地図	38
三珠地区の石仏・道祖神	17	落居地区の地図	
市川地区の地図	18	宮原上ノ平山周遊道	39
大同地区の地図	20	本照寺	40
山保地区の地図	21	山田の獅子舞	40
大門碑林公園	22	藤尾寺木造千手観音座像	41
平塩寺跡地	23	宮原浅間神社	42
夢窓国師母堂の墓	23	本定寺	43
正の木神社	23	印章会館・巨大ハンコ	44
富士講石碑	23	高前寺	45
甲斐源氏旧趾碑	24	六郷地区の石仏・道祖神	46
熊野神社	24	三珠地区の祭り	47
宝寿院	25	市川地区の祭り	48
花園院	25	六郷地区の祭り	49
旧二葉屋酒造	26	市川三郷町ゆかりの人物	50
秋葉の辻	26		

まえがき

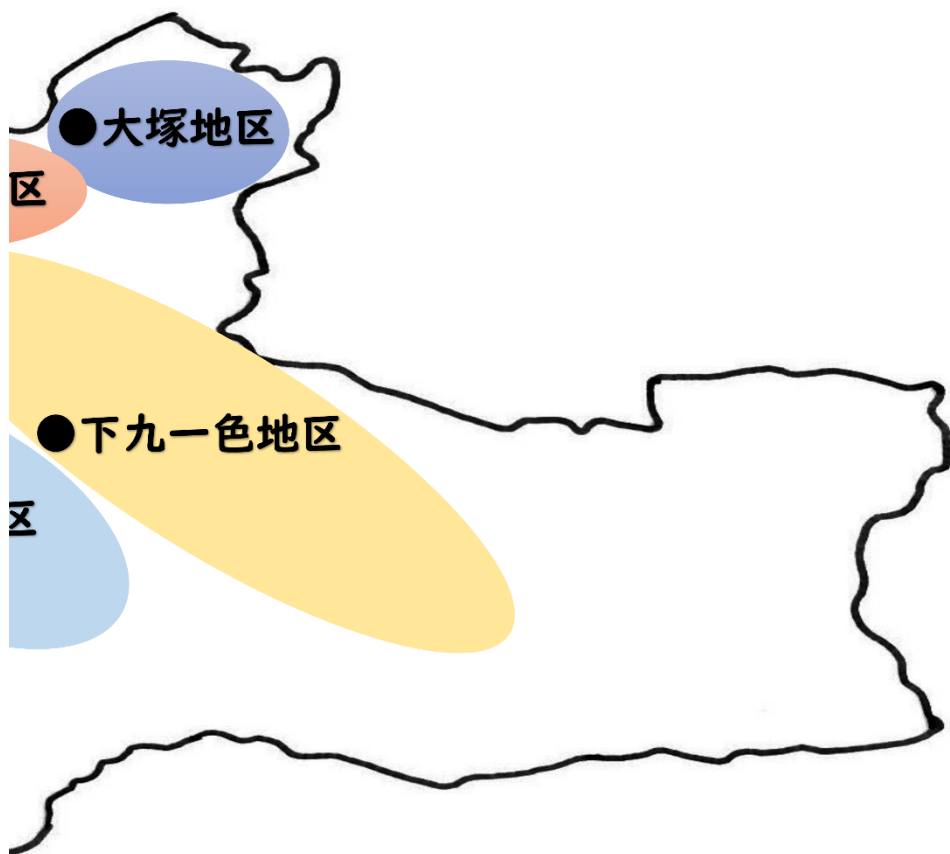
市川三郷まちめぐりマップ

市川三郷町は甲府盆地の南端部に位置し、豊かな自然と文化と歴史に育まれた町です。国・県・町の指定を受けた文化財が100件もあります（国3件・県13件・町84件）。地場産業としては、千年の歴史を誇る和紙、三百年の伝統を誇る花火、印章、大塚にんじなど、語り継ぎたいものがたくさんあります。夢窓国師・坐光寺南屏・渡辺青洲など偉人のDNAを受け継ぐ、歴史と文化の力みなぎる地域です。今回は、公益財団法人山梨鈴木助成事業財団の補助を頂き、『令和の初め自慢』の市川三郷町の佇まいを風情のある絵とマップを中心とし、甲斐国志や旧町誌等を参考に解説文を作成しました。

市川マップの会

会長 一瀬 茂







市川三郷町地区割図



大塚地区



●道祖神



●道祖神

長昌院

南村の宝篋印塔

文大塚小

●道祖神

熊野神社



波場公園



●みたまの湯

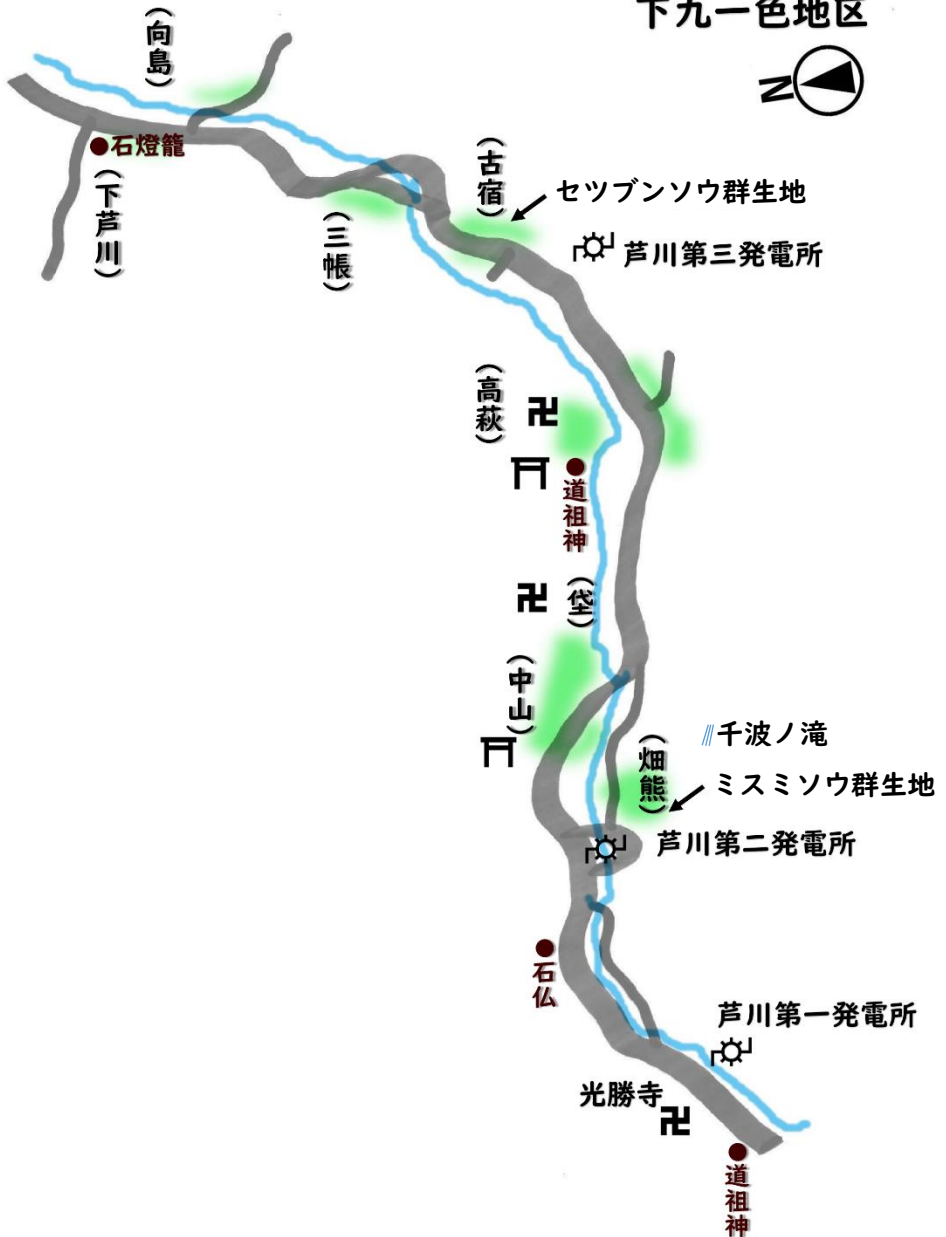
伊勢塚古墳

軍人墓地

大塚古墳

狐塚古墳

下九一色地区





大塚古墳

おおつかこふん

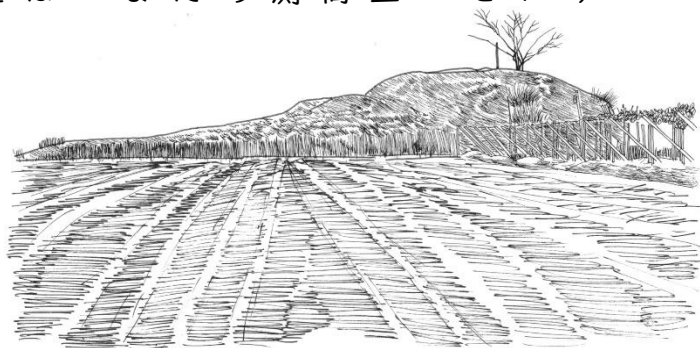
甲府盆地を見下ろす

大塚地区北原の台地に築かれた、帆立貝式と呼ばれる前方後円墳。

墳丘の全長は約四十五メートル、後円部の高さは約五メートルを測ります。五世紀末から六世紀初頭に造られたものと考えられています。

通常、前方後円墳は後円部に埋葬用の石室

を持ちますが、大塚古墳では前方部でも石室が発見されています。注目されているのは前方部の石室から発見された副葬品です。鈴釧すずくしろと呼ばれる



十個の鈴が付いた青銅製腕輪、六鈴鏡ろくれいきょうと呼ばれる六つの鈴が付いた銅鏡は県内でもここでのしか確認されていません。こうした祭祀的な副葬品とともに甲冑、直刀、鉄製の矢尻などの武具も出土しています。

大塚古墳の南西三百メートルには直径約三十六メートルの円墳、伊勢塚古墳があります。大塚古墳より新しいものと考えられています。

また、隣の台地上には国の重要文化財に指定されている「赤鳥元年鏡」が出土した鳥居原狐塚古墳があります。



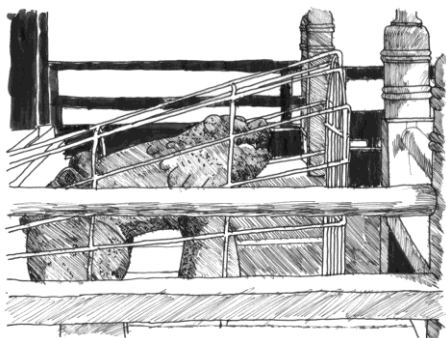
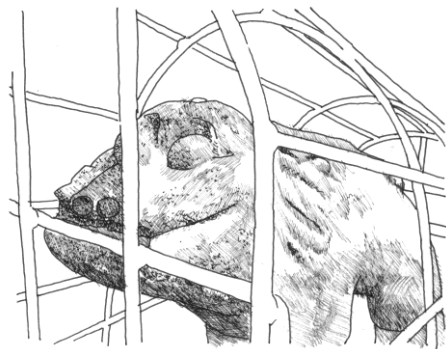
狐塚古墳から出土した赤鳥元年鏡（国指定重文）

熊野神社

くまのじんじゃ

祭神は伊弉冉命、速玉男命、事解男命。
いざなみのみこと はやたまのおのみこと ことさかのをのみこと

古くから大塚地区に熊野三社が祀られていましたが、明治時代以降この地に合祀されました。本殿の前に一对の狛犬があります。腹部に「応永十二年」（一四〇五）の刻銘を持ちその両側に「大公性見」「小公藤二良」と示されています。



前足が折れ、その一部を失っているのが残念ですが、日本でも屈指の古さと、以後の狛犬とは全く違う、古拙とも言える容貌が注目されています。



みなみむら

ほうきよういんとう

南村の宝篋印塔

宝篋印塔とは、本来は宝篋印陀羅尼の経文を納めるものですが笠石の四隅に突起があるのが特徴です。

長昌院の門前にあるこの石造の宝篋印塔は高

さ四・二メートルと大きなもので、塔身の四面に一文字ずつ「念仏供養」の文字が刻まれています。信州高遠の石巧（石工）の名前と天明二年（一七八二）九月建立の銘があります。念仏講中五十三人の名前とその発願で惣村中が施主となって建立したことも刻まれています。



あしがわだいいちはつでんしよ

芦川第一発電所

芦川渓谷にある県内初の発電所。明治三十三年（一九〇〇）に甲府電力株式会社により建設され、続いてさらに上流に第二、第三発電所もつくられました。いず

れも現在も稼働しています。

歌舞伎文化

公園に、記念

碑『水力発電

発祥之郷』と

甲府電力初代

社長で後に市

川大門町長と

なった秋山喜

蔵氏の胸像が

あります。

せんばのたき

千波ノ滝

芦川第一発電

所から県道をさ

らにさかのぼる

と、右手の沢の奥

に望むことがで

きます。落差は百

メートルほども

あり、厳冬期には

氷結します。冬季

は水量に恵まれ

ませんが、それが氷結には有利に働いています。

アイスクライミングの出来る氷瀑としては日本

最大級とされています。



光勝寺

こうしょうじ

芦川溪谷の入口に位置する高野山真言宗の古刹。鎌倉時代の承久二年（一二二〇）に宥教僧都による開基と伝えられています。

本尊の千手観音は秘仏とされ、金剛力士像が安置される仁王門などと共に町の文化財に指定されています。

目の前に芦川が流れ、市街地に程近いにもかかわらず山寺の雰囲気包まれています。門前には県内では珍しいモクゲンジの大きな木があり、七月には無数の花で黄色く染まります。また、それぞれの時期にはあじさい、彼岸花も楽しむことができます。

甲斐西八代七福神めぐりの寺としても親しまれています。



表門神社

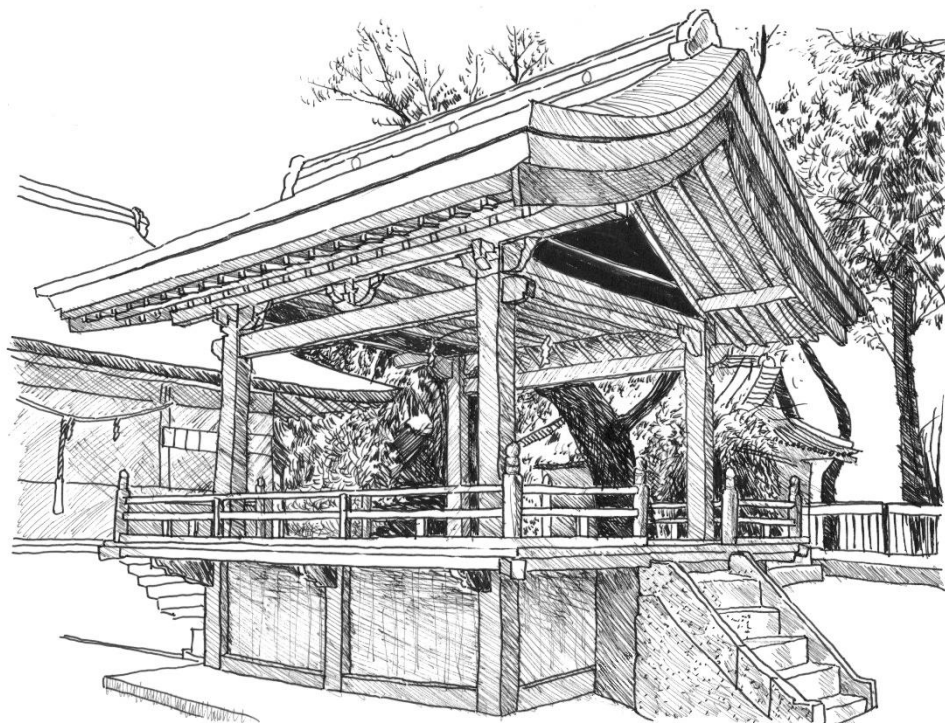
うわとじんじゃ

祭神は天照大神、倉稻魂命、瓊瓊杵尊。
あまてらすおおみかみ　うかのみたまのみこと　にぎのみこと

本殿は三間社流れ造りの建築様式で、桃山期の作風を残していますが、各部分の様式や棟札から、現在の社殿は元禄八年（一六九五）の造営であることがわかります。同じ境内にある拝殿、神楽殿、随神門も同時期に造営されたものと思われます。

神社の中で最も古いものは、県指定文化財の石鳥居。意匠から鎌倉期のものと推定され、がっしりと重厚で風格のある鳥居です。

地元では「お文珠さん」と呼ばれて親しまれていますが、これは上洛中の神主が白河天皇の病を平癒したことにより文珠画像を寄進されたためです。この文珠画像も町の文化財に指定されています。



薬王寺

やくおうじ

高野山真言

宗。天平十八年

(七四六) 聖武

天皇の詔勅によ

り、行基が開き

観全僧都の開山

と伝えられてい

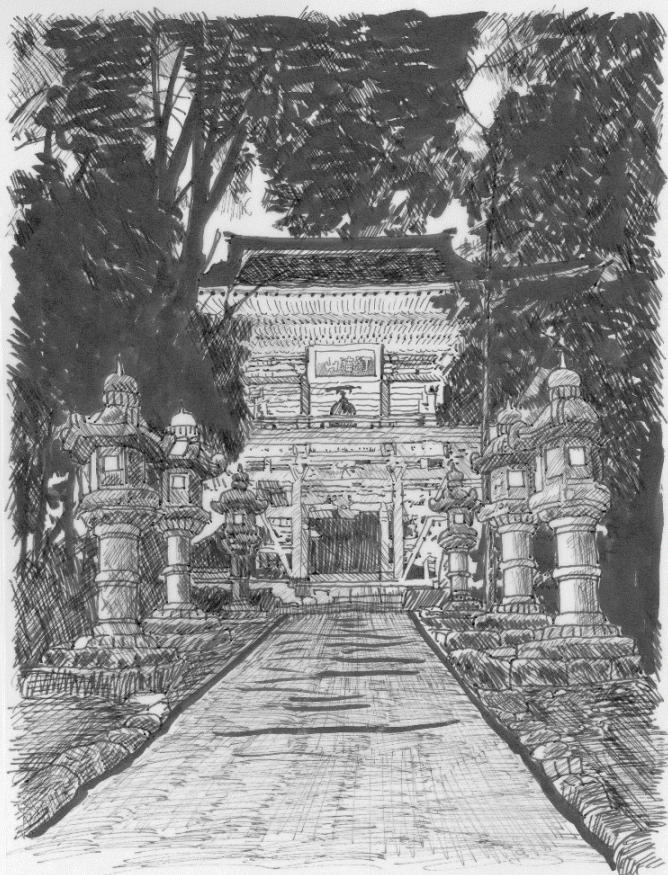
ます。本尊は毘

沙門天像です。

後陽成天皇第八の皇子である八之宮良純親王

が明暦元年(一六五五)から五年間過ごされてい

ました。親王の御座所の一部は現在、客殿上段の



間に移されていま
す。表門神社の御幸

祭は神輿が川を渡

ることと知られて

います。かつては橋

を渡っていました

が、八之宮様が橋の

上から祭りを見物

されていたため男

衆が恐縮して川の

中を渡ったのが、

「みこしの川渡り」の始まりといわれています。

御座所、遺品は町指定文化財。境内のオハツキ

イチョウは県指定の天然記念物です。

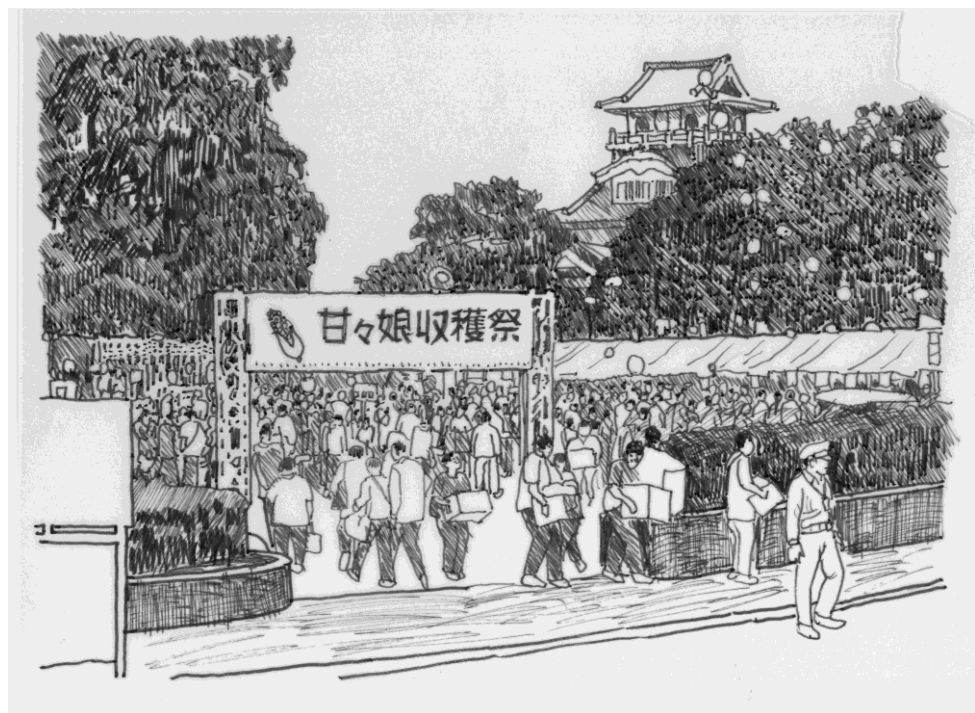
歌舞伎文化公園

かぶきぶんかこうえん

初代市川團十郎の曾祖父堀越十郎家宣が、この地に城を構えた武田信玄の異母弟一条信龍に仕えていたことから市川團十郎家発祥の地を記念して作られた公園です。

歴代団十郎ゆかりの品々を展示する歌舞伎文化資料館と町の歴史資料を展示するふるさと会館があります。ふるさと会館の展望台からは甲府盆地を一望することができます。園内には団十郎家の替紋の牡丹が植えられ、春には色とりどりの大輪の花が楽しめます。

ふるさと会館に隣接する蹴裂神社は天正十年（一五八二）、武田氏滅亡の時、一条信龍が徳川軍を迎えうった上野城の跡と考えられています。



いちかわだんじゅうろう

市川團十郎

一条信龍に仕えた堀越十郎家宣は永禄十二年（一五六九）の北条氏との三増合戦で武功を立て、この地に領地をもりました。

天正十年（一五八二）武田家滅亡の時、一条信龍が徳川軍に敗れると、堀越十郎は下総（千葉県）の幡谷に逃れます。この時立ち寄った一宮村石原氏宅に堀越家の家系図を預けました。

この家系図を市川三升（後に十代目団十郎を追贈）が石原家で見たのが昭和七年のことです。喜んだ三升は昭和二十八年、蹴裂神社に「初代市川團十郎先祖館跡」の木標を建立、昭和三十四年には九代目市川海老蔵（後の十一代団十郎）が朽ちた木標に替えて「元祖市川團十郎先祖館跡」の木標を建てました。昭和五十

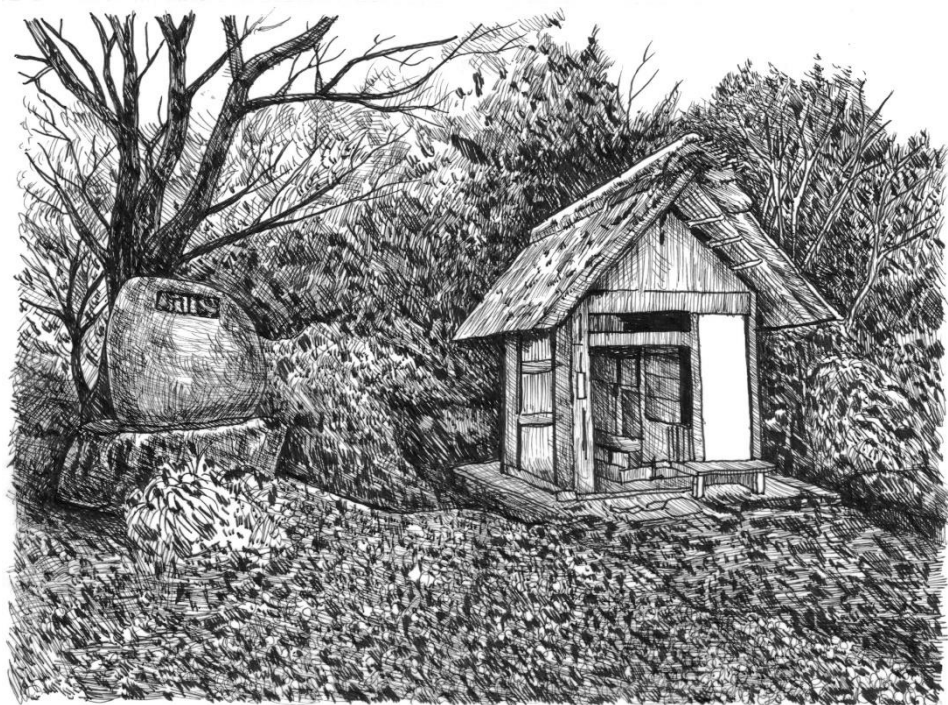
九年には黒御影石の発祥記念碑が牡丹園の中に建てられました。



やま せんせい たんざわしやうさく
山の先生 丹沢正作

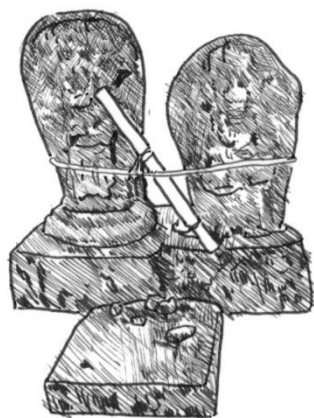
明治九年（一八七六）、上野村に生まれた丹沢正作は明治三十一年に市川教会で洗礼を受け、三十三年に東京専門学校（現早稲田大学）法律科を卒業。三十六年に上野村役場に勤務すると、平民学校、信用組合、小作組合などを作り地域の人々のためにつくし、キリスト教の伝導にも努めました。集落から少し離れた山に住んでいたことから「山の先生」と呼ばれて親しまれていました。

トルストイの影響を受けた彼は作家の徳富とくとみ蘆花ろかや思想家の江渡狄嶺えどてきれいとも親交を持ち、蘆花の随筆集『みみずのたはごと』に登場する「甲州の赤沢君」は丹沢正作のことです。日露戦争の際には非戦論を主張した平和主義者でもありました。





川浦道祖神



上野矢作の道祖神



大塚の一石六地藏



大塚南区の道祖神





市川地区

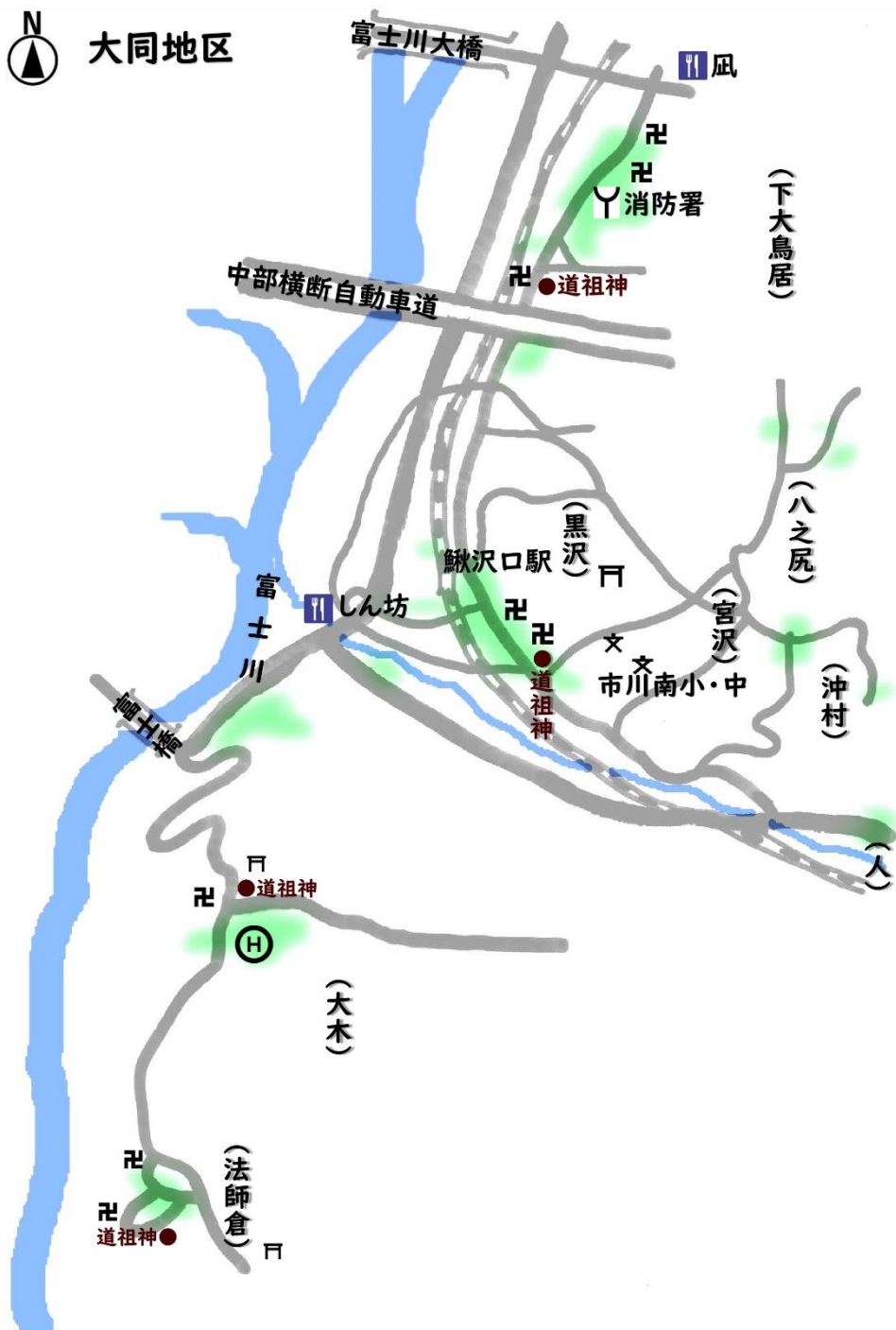
食事処 (営業日・営業時間は要確認)

- ① 魚幸
- ② とんかつ 暁
- ③ 明朗軒
- ④ 丹頂館
- ⑤ 魚善
- ⑥ 大門軒
- ⑦ とりしん
- ⑧ ことぶき
- ⑨ けんずし
- ⑩ 竹田屋
- ⑪ ニューポート
- ⑫ まゆみ
- ⑬ ラーメン 専科
- ⑭ 亀鶴
- ⑮ 昇龍
- ⑯ 林香園





大同地区





だもんひりんこうえん

大門碑林公園

平成六年に開園しました。旧市川大門町が二十世紀を見据えた書道の街づくりとして、また、次世代に受け継ぐ文化をとの構想から建設されました。中国書道史の石碑を代表する、陝西省の西安碑林と山東省の曲阜碑林の名碑が中国陝西省碑林博物館の監修・製作により忠実に復元されています。書聖・王羲之の集王聖教序碑など十五基があります。中国風の建物が点在し、高台からは甲府盆地や山々がよく見渡せます。隣接する「ひらしお源氏の館」は日本伝統の重みを感じさせる木造建築で多目的ホールになっています。ジヤンボ硯・墨も展示されています。



へい えんじあ とち　む そうこくし ぼ どう　は か
平塩寺跡地・夢窓国師母堂の墓・

しょう　きじんじや　ふじこうせきひ

正の木神社・富士講石碑

○弘安元年（一二七八）、夢窓国師が四歳の時一家は伊勢より移り、その年に母が亡くなりました。師が九歳の時、平塩寺貫主空阿のもと出家しました。母堂の墓は文久年間（一八六一〜六四）鈴木徳右衛門が建てました。

うかのみたまのみこと

○正の木神社は倉稻魂命が祀られて、貞観七年

（八六五）

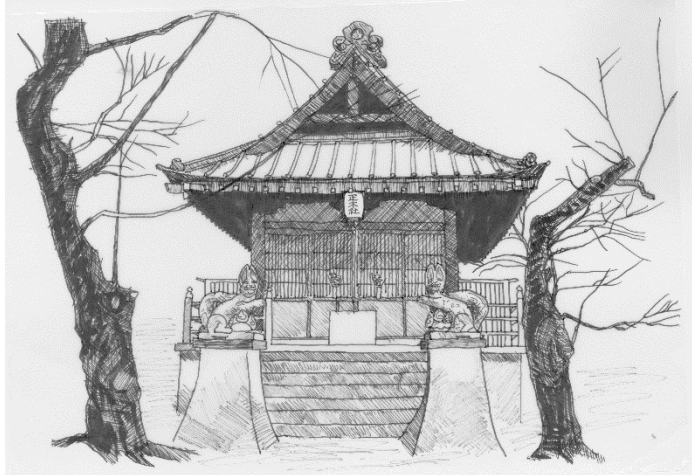
創立と伝えられ、平塩寺に關係がある
と謂われています。



現在の建物は文化十四年（一八一七）の建立と伝わっています。

○その北側の

富士講石碑は富士登山三十三回や四十回の大先達の偉業を称え建てたものです。天保三年（一八三二）から昭和三十一年まであります。



かいげんじきゅうしひ

甲斐源氏旧趾碑

明治十八年に郡長依田孝氏等が建てました。三条実美書（碑陽）、重野成齋撰文、長三州の筆によるものです。甲斐源氏の祖、源義清（義光の三男）がこの地に天永年中（一一一〇—一一一三）に常陸から市河庄の荘官として移郷したことを記念しています。



くまのじんじゃ

熊野神社

祭神は

くまのおおかみ

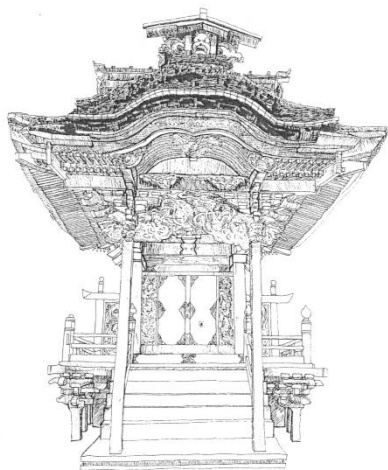
熊野大神、

くしみけぬのみこと

櫛御氣野命で

す。甲斐源氏

の祖、源義清が平塩地内の諸神を集めて祀ったと伝えられています。本殿は一間社入母屋造り、正面千鳥破風、檜皮葺、総檜造りで町指定文化財です。棟木に安政元年（一八五四）棟梁立川金四郎、大工石原恵助、一瀬義吉とあります。彫刻は「翁の図」「鍛冶師の図」「大蛇成敗の図」「昇龍・降龍の図」の透彫りです。



宝寿院

ほうじゅいん

時刻を告げる鐘といただける桜で有名です。

高野山真言宗、平塩寺の支院、本尊は虚空蔵菩薩です。勝宝七年（七五五）に真辨が開基、天文八年（一五六二）円雄が中興したと伝わっています。山

門は、天明時代に六部の源二が浄財建立したと伝わっています。鐘は享保五年（一七二〇）に鑄造、鐘楼は明治時代の再建です。庭園は夢窓国師作と伝承され、町の天然記念物のコノテガシワ・アラ



ラギがあります。堂の裏手に業秤の石像があります。

花園院

はなぞのいん

「おきょういん」と呼ばれています。

高野山真言宗、平塩寺の支院、本尊は大日如来です。現在の建物は宝暦九年（一七五九）

に建立されました。寛政四年（一七九三）に市川別當内膳源行光が寄進した町指定文化財の平塩寺大過去帳が保存されています。



旧二葉屋酒造

きゅうふたば やしゅぞう

創業は明治三十四年、玄関と中庭に大きな梅壇の木があり、酒の銘柄を梅壇と名付けていました。建物は大正の初めに他村から移築し二階を増築

しました。大黒柱は四十センチ角で、柱や廊下も樺で黒光りしています。二階の床柱は黒柿です。平成二十一年に市川マップの会が保存して、二十三年に国の登録有形文化財に指定されました。

秋葉の辻

あきはば つじ

平成十九年に

まちかどスポーツ

トの整備の一つ

として四丁目の

道祖神が移され

広場となりました

た。平成二十六

年に水路拡張工

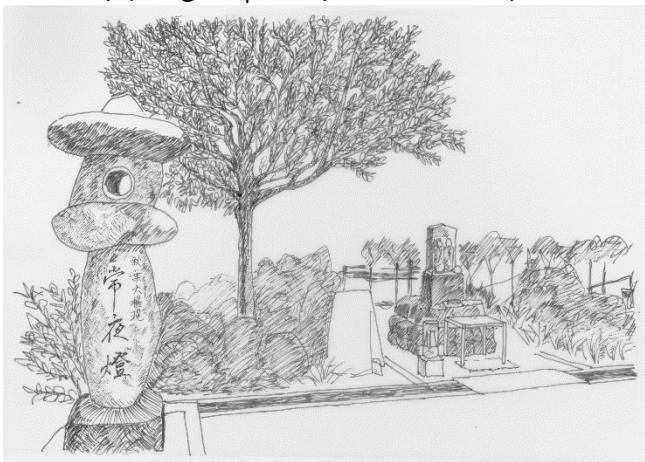
事の時、三丁目

の嶋屋板金宅前の土中より常夜燈の竿と礎石が

見つかり移設しました。「秋葉大権現・常夜燈・

嘉永年四年」(一八五二)「三街比屋」の文字が刻

まれています。



はちまんじんじゃ

八幡神社

ちゅうあいてん

祭神は仲哀天

のう おうじんてんのう

皇・応神天皇・

たまよりびめのみこと

玉依姫命です。

鎮座の年代不明

ですが甲斐源氏

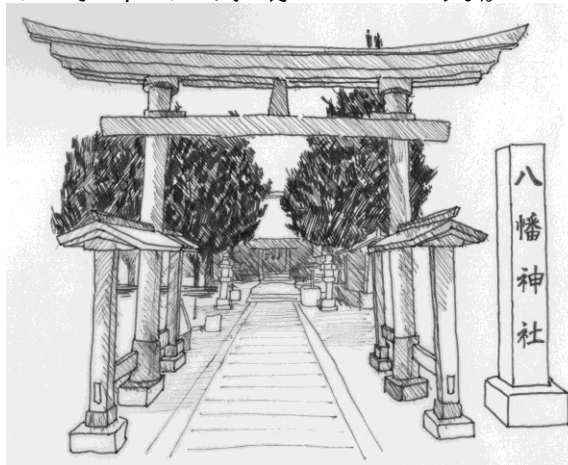
と関わり合いが

深く、寛政二年

(一七九〇)の灯

籠や檜の古木が

あります。



八處女神明宮

やおとめしんめいぐう

八乙女神社と神明社は昭和三十三年に合祀し

八處女神明宮となりました。

おおみやのめのみこと

○八乙女さんの祭神は大宮能咩命です。昭和二

十三年、旧市川保育園(現市川幼稚園地)建設のため神明社域内に移築されました。

○神明社は紙明社といい応和元年(九六一)の創

あめのひわしのみこと あま

立て平塩にありました。祭神は天日鷲命、天

てらすおおみかみ おおやまくいのみこと

照大神、大山咋命です。源義清の家臣甚左

衛門は製紙の技術に熟練、里人に伝授し、その

徳を追慕して命日七月二十日に祭典が行われ

ています。天

明年中(一七

八一〜八九)

坐光寺南屏に

より神明社と

されました。

現在の社殿は

寛政年中(一

七八九〜一八

〇一)に再建

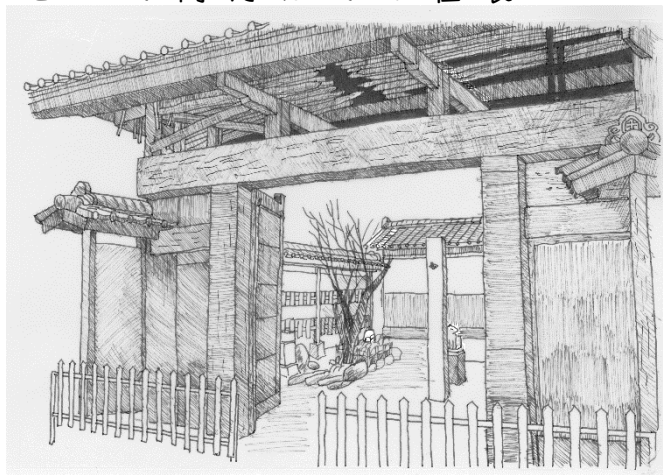
されました。



御陣屋門

市川代官所の西側にあった表門ですが、現在は二十メートル程東に移されています。もとは長屋門でしたが、現在は御門だけが残されています。現状の門を南に入ると稲荷社が祀られています。これも代官所の敷地内にあったものを移設したもので、御門とともに市川代官所の数少ない遺産です。

御門は「市川陣屋跡」として町の文化財に指定されています。



市川代官所

江戸時代、甲府勤番の支配する国中地方は甲府・市川・石和に代官所が置かれました。

市川陣屋は明和二年（一七六五）駿府の紺屋町陣屋の出張陣屋として建てられ、寛政六年（一七九四）に甲州市川代官所となり、八代（一部）・巨摩の統治を司っていました。

代官所には、正庁、代官の居間、手附・手代取締公事方（裁判所）などの建物がありました。現在は表門が移築されて



残されています。

絵図を見ると、表門は現在の中央公園や公民館に接する四つ角にあり、東へ向かって現在の市川三郷町商工会までが敷地に入っていたようです。

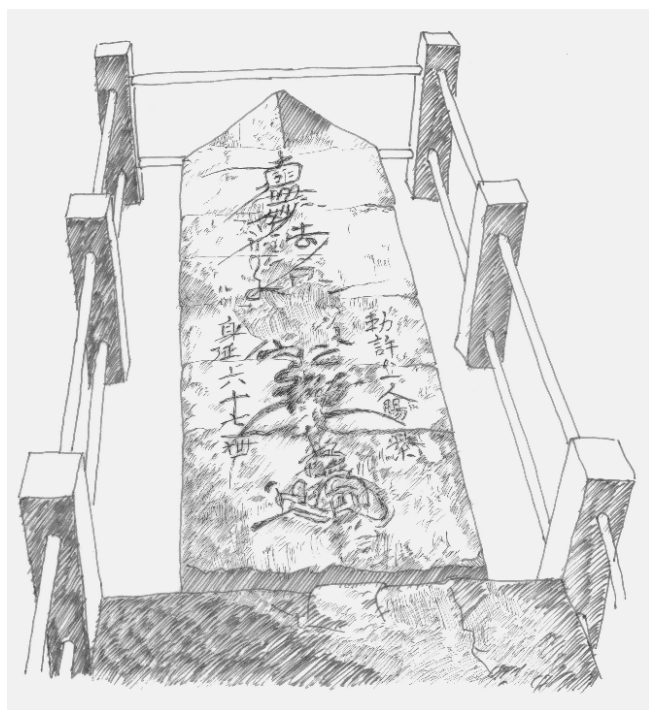
歴代の代官の一人荒井清兵衛は安政元年（一八五四）の大地震の際、代官所の御用金を使い高田村を救済し、村人により生祠に祀られました。また、農政に関する法令集『牧民金鑑』を編集したことも知られています。

また、森田岡太郎は代官を務めた後、江戸幕府の勘定組頭となり万延元年（一八六〇）の遣米使節に任命されています。この使節団に随行したのは市川代官所の典医広瀬保庵です。彼は帰国後、『環海航路日記』『環海航路新図』を著しています。

おしきりけいじょうあと

押切刑場跡

代官所で死罪の宣告を受けた罪人は、江戸奉行所で裁断が下された後、一丁目の寄洲の獄舎から六丁目の山口の東路を経て刑場に送られました。安政三年（一八五六）供養塔が建てられました。



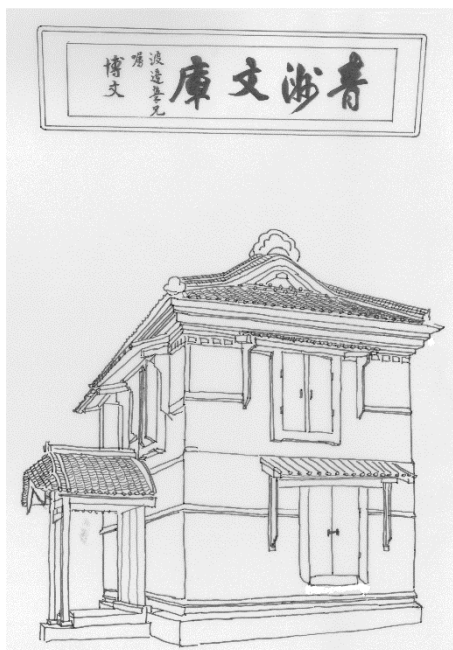
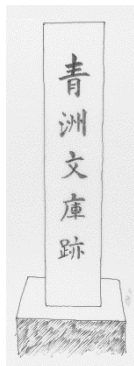


せいしゅうぶんこあとち
青洲文庫跡地

渡辺家は寿（桃廼）
もの

家）・信（青洲）・澤次郎（春英）の三代に亘り、

十万冊に及ぶ書籍を蒐集しました。寿は主に和歌・国学を、青洲は漢籍・史書・法帖類を、澤次



郎は古書・浮世草子・洒落本など蒐集し、明治三十三年（一九〇〇）に、書庫蔵「青洲文庫」を建造しました。蔵書は大正十二年の関東大震災で全焼した東京大学図書館へ、大正十三年に約三万冊譲渡されました。その折、伊藤博文が「青洲文庫」と揮毫した扁額も寄贈されています。

いちかわきようかい

市川教会

プロテスタント派カナダ・メソジスト教会に所属しています。明治三十年に渡辺澤次郎が土地と建築費を献納し、教会員・有志も協力献納、会堂と牧師館を建設しました。平成九年に国の登録有形文化財に指定されました。澤次郎氏は幼児園の敷地を寄付し、カナダ婦人伝道会社が園舎を建て牧師が経営にあたりました。

たんちょうどう

丹頂堂

明治の初期に製糸業で成功した大寄家が建て、その後丹沢武三が受け継いでいます。二階建ての母屋とお蔵はつながっています。中央一階の部分が門口になり裏に通じています。表には市川一の千本格子があり、土間には九十度のレール上を回転する大戸があります。蔵の二階は、太い棟木に自然木の梁が見事な広いお部屋になっています。



福寿院

ふくじゅいん

夜桜が有名です。高野山真言宗、平塩寺の支院、本尊は毘沙門天です。貞和二年（一三三六）源秀が開山したと伝わっています。建物は土蔵造りで、寛政二年（一七九〇）三十一世憲如が再建し、梁間十一間、桁間六間四尺の平屋造りです。廊下は一間のケヤキの板が並んで十一間続いています。東山天皇の弟に当たる伏見宮邦永親王直筆の「高学山」「愛宕山大権現」の額二つがあります。



円立寺

えんりゅうじ

日蓮宗です。もと鳴沢川堤を越えた左方にある、元和元年（一六一五）二十二世日遠上人が弟子日憎に命じて再建、日増上人が中興開山となりました。慶長十七年（一六四二）富士川開削通船の工事が終えた角倉了以は、水難除けの祈願のため天神の像を描き、祠を建て納めました。その後現在の地に移され、この天神の祠や『断毒論』を著わした橋本伯寿の墓もあります。



ゆげじんじや

弓削神社

祭神は瓊々杵尊、木花開耶姫命、彦火火出見尊、
日本武尊、大伴武日命です。設立年代は不詳
ですが、日本後紀に延暦二十四年（八〇五）官社
に列せられ、延喜式内二十社の一つとあります。



東国鎮禦の際、
酒折宮に立ち
寄った日本武
尊がこの地に
住した大伴連
に鞍部を下賜
されたので、弓
削と謂い伝わ
っています。鳥
居・隋神門・拝
殿・本殿が町指
定文化財にな
っています。

いちみやあさまじんじや

一宮浅間神社

祭神は木花
さくやひめのみこと
開耶姫命、
にぎのみこと ひこほ

瓊々杵尊、彦火
ほてのみこと
火出見尊です。

貞観六年（八六
四）富士山噴火
後に創立し官
社に列せられ
ました。現在の
拝殿は元禄十
六年（一七〇
三）改築されて

います。宝物は国重要文化財赤鳥元年（二三八）
銘の銅鏡があります。未曾有の災害時に救済をし
た名主の依田重左衛門安清と市川代官の荒井清
兵衛の生祠があります。



四尾連湖

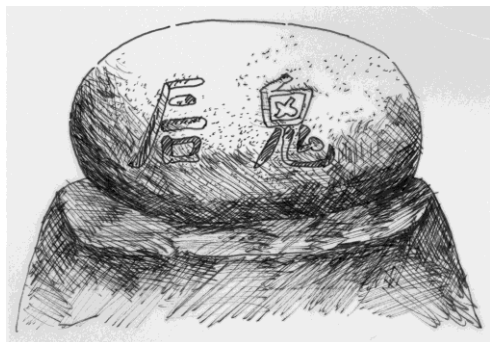
し
び
れ
こ

山梨県立自然公園です。標高は八五〇メートル、周囲一・二キロメートルの山上湖です。古くは富士五湖と泉端、明見湖と共に富士内八海の霊場とされてきました。湖畔には大我講で建てた尾碕龍王碑があります。近くに頼朝公が鷹狩をした際、箸とした木を挿したのが育ったと伝承されている県指定の天然記念物リョウメンヒノキがあります。その並びに、子安神社の拝殿、神楽殿があります。

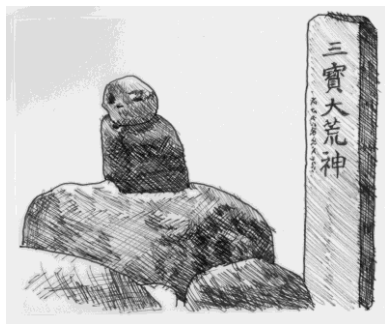
伝説

三、四〇〇年前に、兄弟連れの侍が湖に住む怪牛を射止めましたが、兄弟は犠牲になってしまいました。この年はひどい干ばつでしたが兄弟の犠牲が通じたのか、まもなく大雨が降ってきました。それ以来、干ばつの時兄弟の墓に詣で雨乞いをし、降らない場合は牛の首を湖に沈めて雨乞いをしたと伝えられています。

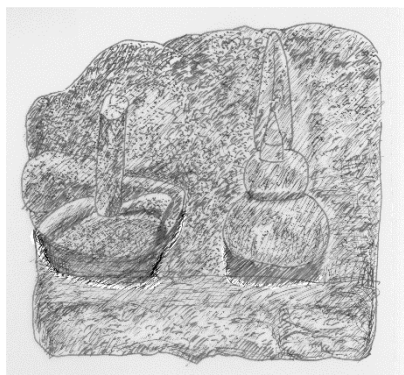




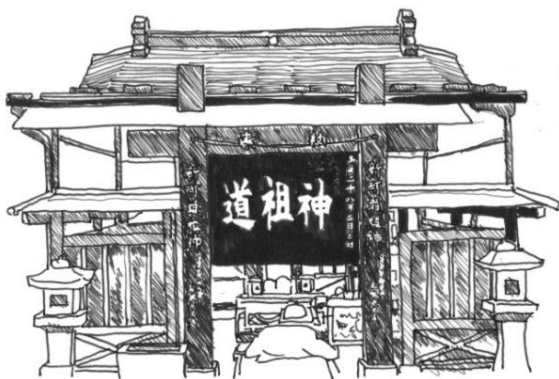
保泉の鬼石



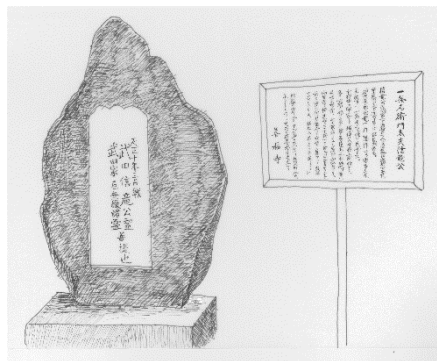
保泉のお荒神さん



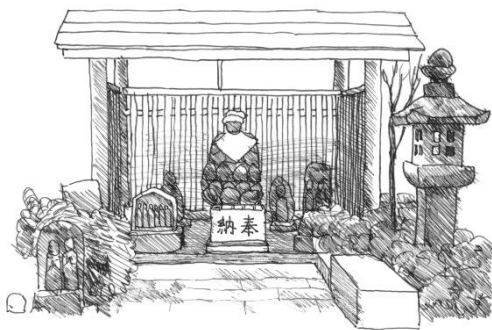
宝寿院の業秤



新町の道祖神



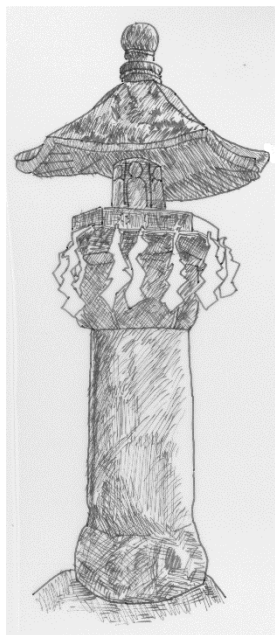
伝・一条信龍終焉の地



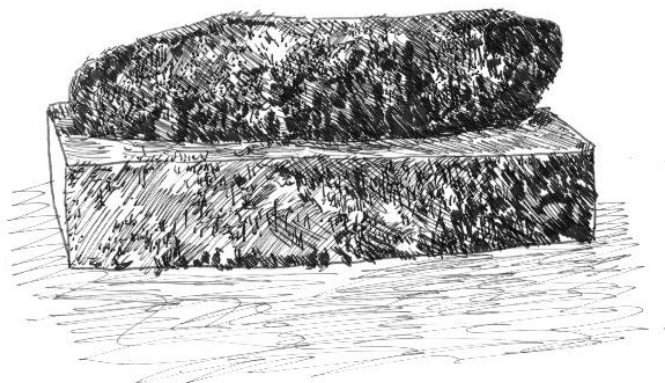
落合の道祖神



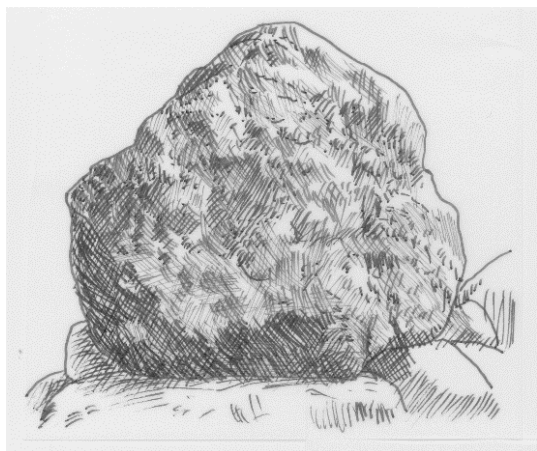
高田川下道祖神場



六地藏石幢



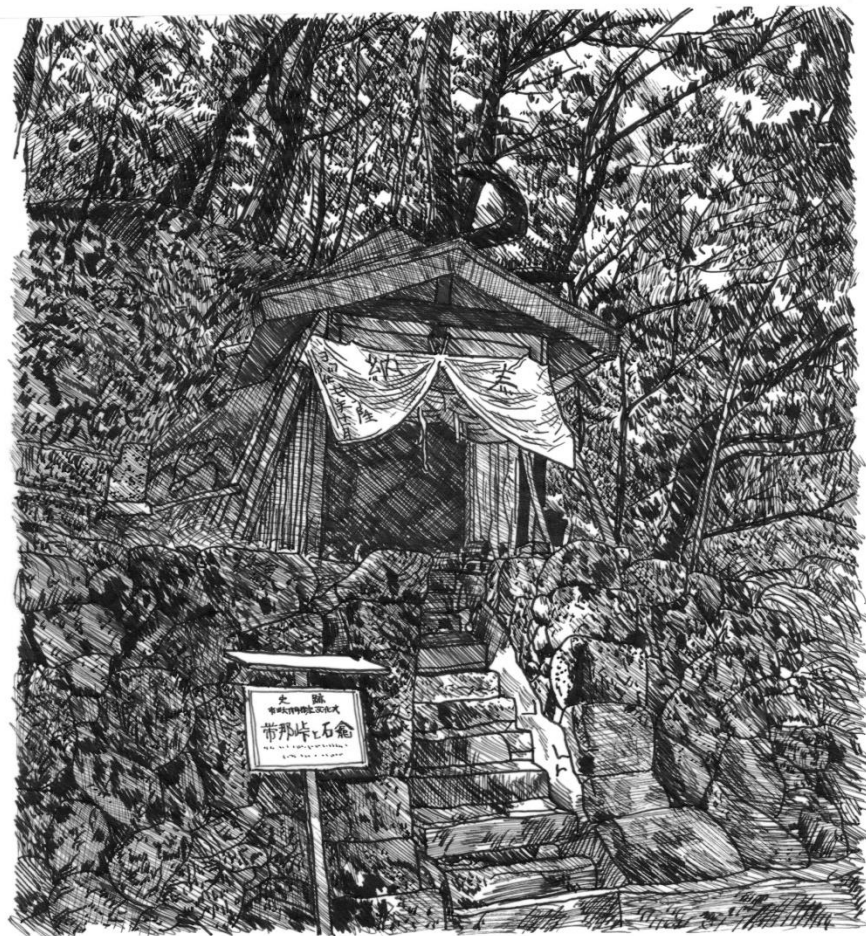
山保の浄身石



印沢のおして石



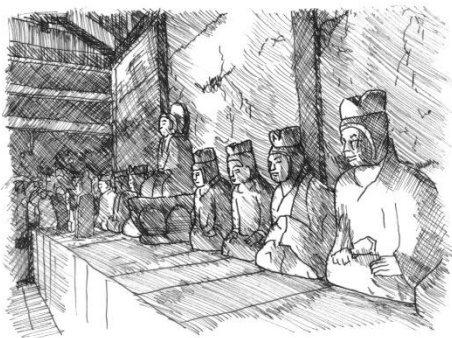
印沢のおして石



帯那石倉



近萩石倉



山保十王堂

岩間・楠甫・宮原・葛箆沢・鴨狩津向地区



落居地区



宮原上ノ平山周遊道



ほんしょうじ

本照寺

康正元年（一四五五）日
延上人により開山された
日蓮宗の寺院。本尊は一塔
両尊四士です。

本堂は元禄四年（一六九
一）、下山村大工棟梁石川
伝衛門により建立されま
した。亀腹的土壇の上に正面五間、側面六間の入



母屋造り。欄間の彫刻、
格天井の絵なども見
事で、元禄建築の代表
的な遺構です。町の文
化財に指定されてい
ます。

梵鐘は元禄九年（一
六九六）、府中（甲府）
在住の小田切三右衛

門知徳、野沢忠左衛門義就により鑄造されたもの
です。乳数は百八個で百八煩惱を意味していると
思われます。町の文化財に指定されています。

やまだ ししまい

山田の獅子舞

この獅子舞は集落の道祖神に献舞した後、御頭
の家の奥座敷で舞い、悪魔退散、五穀豊穡などを
祈願した後、集落各戸を回ります。

江戸時代のこと、重兵衛という人が京で宮使え
をした折に、優

雅な舞に魅せら
れその奥義を体
得して郷里に帰
り若者に伝授
し、正月十四日
の道祖神祭りに
舞ったと伝えら
れています。



とうびじもくぞうせんじゅかんのんざぞう

藤尾寺木造千手観音座像

この像は光岳寺法堂

に隣接した藤尾寺の本尊として祀られており、制作年代は衣文（衣装のひだ等ノ表現）などから鎌倉時代初期の運慶の影響を受けた仏師による鎌倉時代から室町時代にかけての作と推測されています。高さは約一〇センチメートルとかなり大きな座像で、願主の信仰の深さがわかります。

町の文化財に指定されています。



みやばらあさまじんじや

宮原浅間神社

宮原、岩間、葛籠沢一帯の総社で、祭神は木この

はなさくやひめのみこと

あまつひこひこほのくにぎのみこと

あまつひこ

花開耶姫命、天津日高彦火邇々芸命、天津日高

ひこほほでのみこと

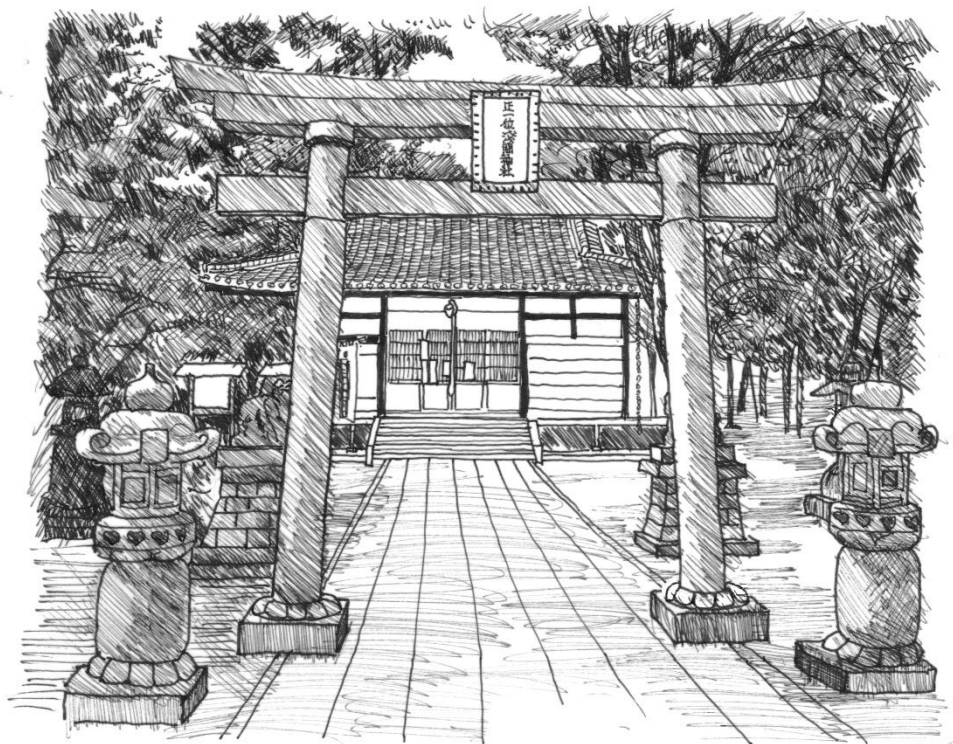
彦火々出見命。創建は第十二代景行天皇の時代

といわれ、本殿は流れ造り、他に拝殿、幣殿、

神楽殿、宝蔵庫、祭器庫、社務所を備えていま

す。

例大祭に奉納される神楽と神輿は町の文化財に指定されています。神輿は「壺番神輿」と呼ばれ、文化十三年（一一八一六）に下山宿大工棟梁石川七郎左衛門源重甫によって建造されたものです。高さ一八〇センチ、開口一八〇センチ、奥行き一八〇センチ、重量が約四〇〇キログラムもあり、「百貫神輿」とも呼ばれています。



ほんじょうじ

本定寺

文安元年

(一四四四)

開山の日蓮宗の寺院。本尊は一塔両尊四士です。

貴重な涅槃

図が伝わっています。涅槃図は、お釈迦様がインドの沙羅双樹の木の間に入滅さ

れた時の光景を描いた図です。この涅槃図は紙本淡彩、画面の縦二・〇九メートル、横幅一・三五メートルで、僧の日順が元禄五年(一六九二)に



す。無名の仏画の多い中で、年代と作者が明確なこともあり、町の文化財に指定されています。

描いたものです。その特色は、画面の上部、豊かに流れる尼連禪河にれんぜんがの上方の雲表に「南無妙法蓮華経」と記されていること、また、これを挟んで右方に摩耶夫人、左に天女の姿が大きく描かれている点です。

いんしょうかいかん きょだい

印章会館・巨大ハンコ

明治のはじめに興った六郷の印章産業は全国生産高の五十パーセントを占めているといわれています。

印章に関する資料を展示する印章会館では様々な印材や印章の完成品、行商が持参した印材や完成品のカタログなど、興味深い資料や中国清時代に編集された印譜集「十鐘山房印拳」などきわめて貴重な資料を見ることがができます。

資料館入口に置かれた日本一の巨大ハンコは高さ三メートル、重量三トンで、武田信玄公の軍旗として知られる「不動如山」の文字が彫られています。



高前寺

こうぜんじ

三沢川と富士川の合流地点南の高台に位置する高前寺。曹洞宗で、本尊は聖観音菩薩です。梵鐘は明暦二年（一六五八）に府中（甲府）在住の沼上主水助吉次・同弥左衛門尉吉久により鑄造。

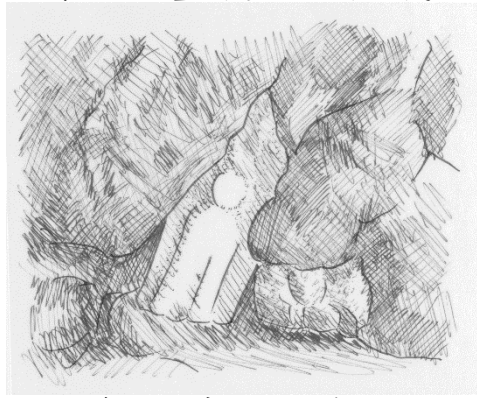


南北朝時代の趣を残しているといわれ、町の文化財に指定されています。

身延山久遠寺に梵鐘を寄進しよ
うと富士川

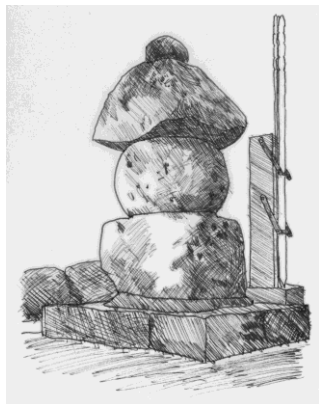
を下っている舟が高前寺近くで沈んでしまい、水の中から「コウゼンジンイタイ」と声がしたため高前寺に寄進することになったという伝説があります。

隣接する旧子安神社



の双幹の樫は根回り六・七メートル、根元近くから大きな二つの支幹に分かれています。町の天然記念物に指定され、根元に二体の石仏を抱え込んだ様子が長い歴史を感じさせます。

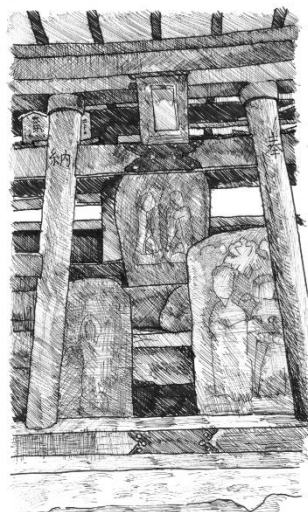




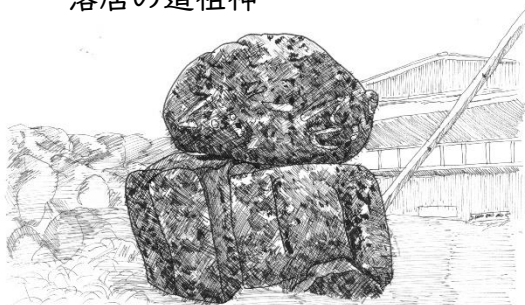
大乘寺の五輪塔



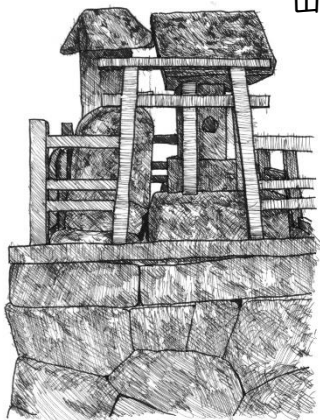
落居の道祖神



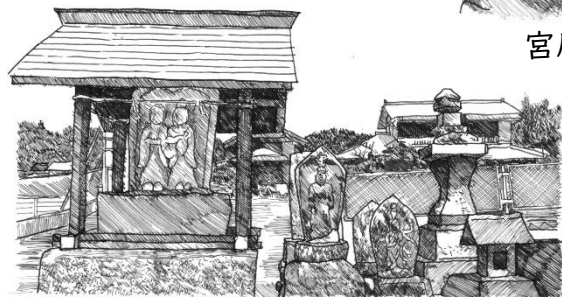
下宿の道祖神



山田の道祖神



宮原の道祖神



葛籠沢の道祖神



楠甫の道祖神

表門神社一の酉祭典

うわとじんじゃいち とりさいてん

二月の第一日曜日に行われる祭典。甲府盆地に

春を告げる祭りと言われています。多くの屋台で

賑わう境内の神

楽殿で表門神社

神楽保存会によ

る太々神楽と氏

子家庭の小学六

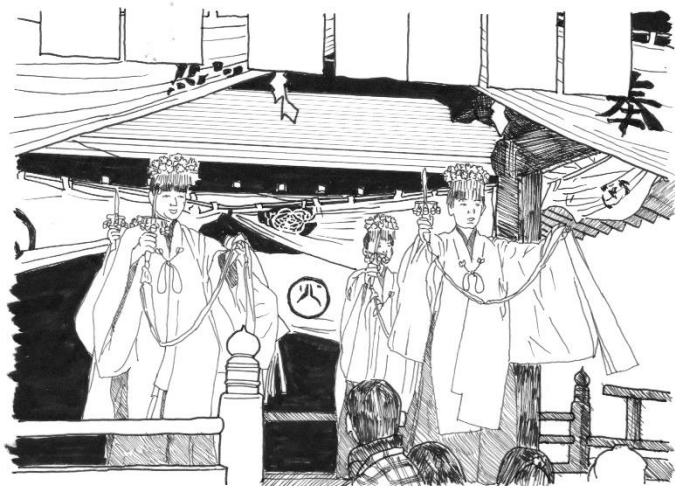
年生女子児童に

よる浦安の舞を

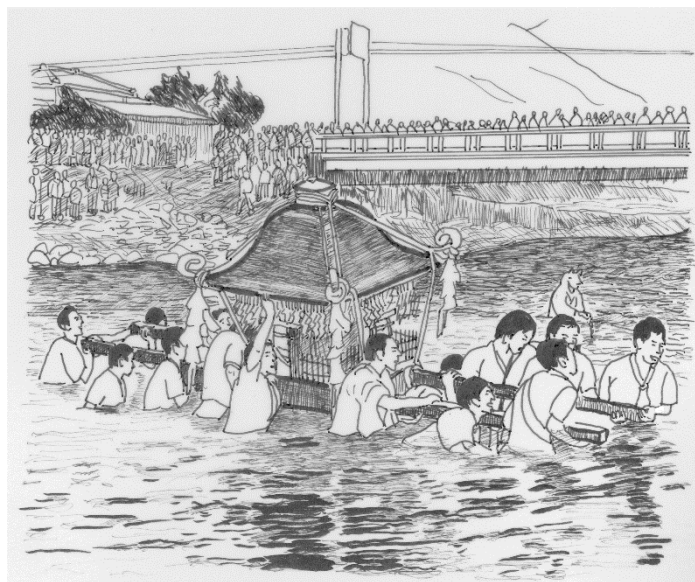
奉納します。

太々神楽は岩戸

神楽と呼ばれる



もので、現在は十四座が奉納されています。
この日は隣接する上野小学校で七十年以上の歴史を誇る「三珠文殊県下書道展」が行われています。



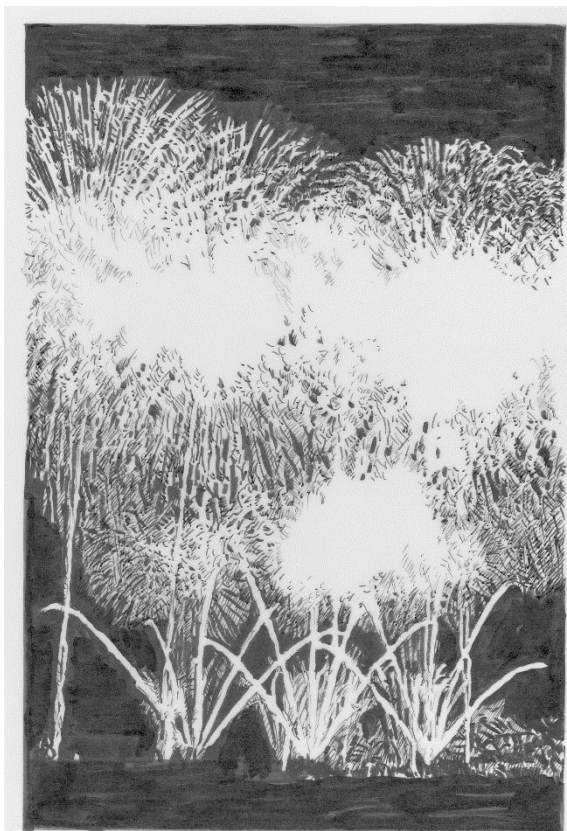
神輿の川渡り（4月の表門神社御幸祭）

神明の花火

しんめい はなび

平成元年より毎年八月七日の花火の日に開催され、花火と音楽のハーモニーでの県下最大級の花火大会です。市川の紙明社が祀ってきた甚左衛門（二十七頁参照）の命日に行う祭の花火をイベントにしました。江戸時代には市川の花火の技術は

特に優れたものとされ、三州の吉田（岡崎）、常州の水戸、甲州の市川を日本花火の三名所と賞賛されていました。



祇園祭典の神輿

宮原浅間神社春季例大祭

四月に行われる例大祭は神輿と山車が宮原、岩間、葛籠沢の三地区を一年交代で練り歩き、太々

神楽が奉納されます。神

輿に宿る木

はなさくやめのみこと

花咲耶姫命

に少しでも

長く留まっ

てもらいた

め、神輿の巡

行を山車が

邪魔をする

ところも見

どころです。

神輿巡行

の御旅所で



木花咲耶
姫命にご
覧いただ
くために
神輿の前
で披露さ
れる舞は
稚児の舞
と大人の
舞があり
ます。

秋の例
大祭では
神社の境
内の神楽
殿で太々
神楽を奉
納します。

市川三郷町ゆかりの人物

11世紀から近代までの市川三郷町に関わった偉人等を列挙しました

氏名	年代	経歴
みなもとのよしきよ 源 義 清	1075(承保 2) -1149(久安 5)	平安時代後期の武将。源義光の三男。河内源氏の一族で甲斐源氏の祖となる。 1131(天承元)市河荘に移郷。
じんざえもん 甚左衛門	-1181(養和元)	源義清の家臣で、紙工でもあった甚左衛門が里人に技術を教えた。その徳を讃え、命日の7月20日に祭りが行われている。
むそうそせき 夢窓疎石 (国師)	1275(建治元) -1351(観応 2)	鎌倉時代末から南北朝時代、室町時代初期にかけての臨済宗の禅僧。9歳で平塩寺にて空阿について出家する。庭園設計、和歌にも優れた。天龍寺、恵林寺なども開山。苔寺中興の祖。
いちじょうのぶたつ 一 条 信 龍	1539(天文 8) -1582(天正 10)	武田信虎の八男。武田二十四将の一人。堀越十郎の主君。
ほりこしじゅうろう 堀 越 十 郎 いえのぶ 家 宣	~1569(永禄 12)~	市川團十郎の曾祖父。永禄12年、堀越十郎家宣は相州三増合戦の戦功で上野の地を賜る。武田の武将一条信龍に仕えていた。後下総国幡谷に移る。
いちのせちしょうじつ 一 瀬 調 実	1652(承応元) -1725(享保 10)	幕府御用の紙漉(かみすき)肌吉衆。俳人。甲斐最初の俳諧書「白根嶽」を出す。
ざこうじ 坐光寺 なんぺい 南 屏	1735(享保 20) -1818(文政元)	江戸時代中期-後期の儒者。天明のころ私塾桐華書屋を開く。詩文・書道・絵画に秀で、甲斐の儒医南屏と称される。
おざわ 小 沢 きゅうえもん 久 右 衛 門	1793(寛政 5) -1869(明治 2)	有隣。甲州の和算家。関孝和の弟子。『算法通書』に出題。市川大門の歴史にも関心深く古老の聞書をまとめ「俚老物語」を著している。

氏名	年代	経歴
あかいけ か きち 赤池嘉吉	-1842(天保 13)	甲斐国八代郡岩間村の生まれ。7歳で将棋を解し、幼少から神童とうたわれる。
はしもとはくじゅ 橋本伯寿	-1822(文政 2)	通称は保節。江戸後期の医者。『断毒論』を著し、天然痘、麻疹、梅毒、疥癬の伝染病説を立てた。
おおより 大寄 とも え もん 友右衛門	1791(寛政 4) -1861(文久元)	市川大門村名主。忍野八海を江戸末期に再興。富士講「大我講」を設立。忍野八海を富士講の聖地に開発。
ひろせ ほ あん 広瀬保庵	1808(文化 5) -1865(慶応元)	市川代官所の医師。万延元年遣米使節団の随員。日本人初の世界一周を果たし「環海航路日記」「環海航路新図」を著す。
つむぎのぶんきち 津向文吉	1810(文化 7) -1883(明治 16)	江戸時代後期の博徒。甲斐国(山梨県)で活動した甲州博徒の一人。黒駒の勝三・清水の次郎長等と親交があった。
あら い 荒井 せい べ え 清兵衛	1813(文化 10) -1862(文久 2)	1850(嘉永 3)市川代官となる。安政元年大地震の際高田村が全滅代官所の御用金を流用し村民を救済。
あおしまさだかた 青島貞賢	1819(文政 2) -1896(明治 29)	市川大門弓削神社神官。和学者。歌人。
むらまつけんざん 村松研山	1839(天保 10) -1898(明治 31)	徽典館(山梨大学の前身)の講師。書画に通じ、特に蟹の画が得意で研山蟹と言われる。
わたなべせいしゅう 渡邊青洲	1840(天保 11) -1911(明治 44)	信(青洲は号)。市川大門村初代村長、実業家、蔵書家。青洲文庫という図書館を設けた。東大図書館に譲渡。また、伊藤博文の扁額「青洲文庫」を譲渡。

氏名	年代	経歴
よだ たかし 依田 孝	1851(嘉永 4) -1903(明治 36)	明治 12 年山梨県会議員、同副議長。民権運動に参加し板垣退助を呼ぶ。後に西山梨郡長に転じる。平塩に甲斐源氏旧趾の碑を建てる。
あきやまよしぞう 秋山喜蔵	1864(元治元) -1932(昭和 7)	明治 33 年山梨県初の芦川第 1 発電所を造る。
いちのせますきち 一瀬益吉	1865(慶応元) -1921(大正 10)	上野村(旧三珠町)の村長。新種の桑を発見し、一瀬桑と名付けて広めた。昭和 23 年には貞明皇后がご視察された。
むらまつ がくゆう 村松 学佑	1869(明治 2) -1925(大正 14)	医師。山梨県病院々長を務めた。渡邊青洲の主治医。著書に『甲斐国医史』がある。
むらまつ しこう 村松 志孝	1874(明治 7) -1974(昭和 49)	蘆洲と号す。山梨郷土史研究の先駆者。著書に「山県大式」「甲州叢話」「市川紙業史」等がある。
たんざわしょうさく 丹沢正作	1876(明治 9) -1926(大正 15)	三珠農村広場付近に「山の家」と呼ばれる茅葺屋根の小さな家がある。修道庵として「山の先生」と呼ばれ村人の敬愛を集めていた。
かわにしてきしゅう 河西笛洲	1883(明治 16) -1947(昭和 22)	篆刻家。大阪に移居。梅舒適の師。印譜に『帰去来印譜』『醉翁亭印譜』がある。
むらまつ すすむ 村松 進	1884(明治 17) -1927(昭和 2)	白瀬南極探検隊に参加した。第一次白瀬南極探検隊では、機関士として参加している。
たんざわよしとし 丹沢善利	1891(明治 24) -1969(昭和 44)	蘭貿易を設立し、南洋貿易で成功する。
おざわかいさく 小澤開作	1898(明治 30) -1970(昭和 45)	小沢征爾の父。歯科医師。満州にて五族協和を提唱。ロバート・ケネディと会談。

氏名	年代	経歴
あおやぎみずほ 青柳瑞穂	1899(明治 32) -1971(昭和 46)	仏文学者。ルソーの作品を翻訳して第 1 回戸川秋骨賞を受賞。
いしはらふみお 石原文雄	1900(明治 33) -1971(昭和 46)	小説家。農民を素材とした写実的手法に特徴がある。山梨の文化振興に寄与。「断崖の村」は芥川賞候補作。『太陽樹』は新潮文学賞候補作。
つちやぎろう 土屋義郎	1900(明治 33) -1991(平成 3)	岸田劉生に師事し、草土社第 9 回展では出品 17 点が全点入選した。望月春江らと山梨美術協会の結成に参加。
のざわ はじめ 野沢 一	1904(明治 37) -1945(昭和 20)	詩人。「四尾連湖」畔の掘建て小屋に籠もり出筆。「木葉童子 ^{こっぱどうじ} 」と自らも称する。
こばやしよしじろう 小林義次郎	1905(明治 38) -1972(昭和 47)	ビニール障子紙(手漉き)の発明者。町の製紙業の発展に寄与した。
のむらせいろく 野村清六	1916(大正 5) -1995(平成 7)	日本画家。第 1 回日仏現代美術展で大賞を受賞。俳誌『雲母』の表紙。
ありいずみ とおる 有 泉 亨	1919(大正 8) -1999(平成 11)	市川大門町長として、大同地区合併の際「一部分町問題」を住民投票ではなく、可能な限り話し合いによる解決という住民本位の方針をとった。

市川マップの会

会長 一 瀬 茂

STAFF

今 村	均	(イラスト)
赤 池	幸 久	(文)
丹 澤	孝	(文)
和 田	豊	(文)
一 瀬	八重子	(コーディネーター)
一 瀬	純 司	(編集)
丹 沢	公 彦	(地図)
中 込	齋	(題字)
齋 藤	知恵子	(文)
青 柳	政 男	(文)
秋 山	治 久	
一 瀬	秀 明	
丹 沢	武 久	

山梨県西八代郡市川三郷町市川大門 1200 邦文堂内

Tel. 055-272-0218 Fax. 055-272-3218

HomePage <http://www.hobundo-c.com>

e-mail ichinose@hobundo-c.com

書名 市川三郷まちめぐりマップ

発行年月日 令和 2 年 1 月 20 日

発行者 市川マップの会

挿絵の説明 p.1 および裏表紙は旧市川大門町上町の道祖神

